

MY SCATTERED LIFE

寝ぐせのままで
哲学する

橋本昂祈の初エッセイ集
ありのままを生きてく中で
感じたことを感じるままに

著・橋本昂祈



目次

缶ジュース	1
未来予想図 50 歳	9
君は何のために勉強するのか？	15
おんがくの方	22
秋の祈り	27
湖上の月	34
ファミコン世代	42
ジャズクラブ	48
異性に護られる男	54
ルーティンの力	59
生みの苦しみ	66
一生の恩人	70
古代文明の不思議や宇宙について	79
引きこもりとエレキギター	86
40 にして惑わず 50 にして天命を知る	95
頭の良い人とは努力の仕方を知っている	105
時を創る。時を待つ。	113
全てを受け入れること	119

缶ジュース

僕は【缶ジュース】が大好きである。

理由などは様々あるが

一言でいえば

『子供の頃になかなか買ってもらえなかったから』

なのだと思う。

僕んちは3人も子供がいたから

食費だけでも相当たいへんだったと思う。

末っ子の僕なんかは幼い頃から兄貴に

「あまり親に金使わせるな！」

と厳しく言われたものだ。

まあ

うちの父親も変わった考えの持ち主で

「15歳になったらもう立派な大人だ。だから酒やタバコも俺の前では吸ってもいいからな」

みたいに言われてた。

それはつまり

（末っ子で次男のお前は成人式迎えたらさっさと家を出ろよ！）

とゆゝ意味も含まれていたようだ。

（父の話は説明不足なのでよく理解できなかった）

だから

末っ子で次男の僕なんかは【進学塾】に通うなんてことは、高校受験ギリギリの中学3年生にあがるまで許して貰えなかった。

兄貴や姉貴なんかは

小学生の頃からピアノや塾など通っていたというのに、偏差値50弱くらいのチャライ高校しか受からなかった。

だから僕にその時（高校受験）がきたらレベルの高い高校へ進学して見返してやろう！ と強く決心したものだ。

まあ

僕が通わせて頂いた塾は【私立受験専門】の塾だったので、都立の高校を受験するには、理科と社会を頑張らなきゃならなかったのである。

中2の一年間、バカみたいに遊びほうけてたせいで理科や社会が絶望的だった。

だから

いまさら理科や社会を一から勉強するよりかは

国語、数学、英語を強化した方が現実的だった。

まあ

たった3教科だけで偏差値50弱の高校に受かったのだからそこまで地頭は悪くないな？ と自信を持てるようになった。

んで【缶ジュース】の話からそれまくったので、そろそろ本題になるが、なぜか？ は解らないが

中学3年生になると

これまでなかった

【お小遣い制度】が復活した。

きっと、兄貴が社会人一年目の年だったから家にもお金を入れるようになって家計が少し楽になったのだろう。

だから

塾の帰りにはコンビニに立ち寄り【缶ジュース】を買うのがご褒美だった。

親からお小遣いがもらえなかった友達もいたのだが、みんなでお金出し合ってカラオケやボーリングに行ったことも懐かしい思い出だ。

ちなみに

お小遣いをもらえなかった友達は、よくよく話を聴いてみると【大学進学のために親がコツコツ貯金していた】らしい。

しかしながら人生とはなかなかどうして？

そんなに計画通りにはいかないもの。

その友達はせっかくお小遣いを我慢して大学進学したとゆゝのに大学で【ヒドイいじめ】にあいすぐに辞めてしまったらしい。

うーむ。

中学生時代、高校時代に

さんざん遊びほうけて生きてきた僕なんかの方が

よっぽど【正解】だったのか？ とすら思う。

なぜならば僕たちの世代は

大学卒業しても就職できる割合が50パーセントしかなかったからだ。

俗に言う

就職氷河期世代である。

そもそも

サラリーマンになるつもりなんてなかった僕ですら、高校進学後にイジメにあって学校を辞めざるを得なかったのだから、もはや何が正解だったのか？ なんて誰にも解らないと思う。

んで

高校を辞めてすぐにコンビニのアルバイトをはじめたのだが、、

僕の将来を心配した父親が、僕に内緒で勝手に

【大工の見習い】の話を取り付けてきた。

当時の建築現場にはヤクザになり損ねたようなガラの悪いオッサン連中と

週末は暴走族の集会に顔だしてます！ みたいなヤンキーしかいなかった。

地元が蒲田だからヤクザやヤンキーには免疫ある方だと思ってたら、、

まあ

ヤクザやヤンキーたちの意地の悪いこと。

僕なんかはどちらかといえば姉貴からジャニーズ事務所に書類送検されかけたくらい、中性的な顔だちをしているので、完全に場違いで、ヤンキーやヤクザ崩れのオッサンたちからよくいじめられたものだ。

しかも

朝は6時に集合で帰りは19時過ぎてから拘束時間長いし、しかも、週6日のフルタイムである。

「飲まなきゃやってらんねえ！」

みんなが口々に言うセリフは、いつしか僕の口癖に変わった。

んで【缶ジュース】である。

僕はお酒に弱い体質だから親方の付き合いで【スナック】に連れて行ってもらっても、缶ジュースや缶コーヒーしか飲まない。

正確に言えば酒を飲まして貰えない。

たぶん

ただでさえお酒に弱いのに

お酒を飲むと勢いづいてあたりかまわず愚痴りまくっていたからだと思う。

まあ

大工などの現場仕事をしていると、かなり汗もかくので、

朝、昼、晩だけでなく、10時と15時にもお茶とタバコ休憩をとらないと死んでしまう。

その名残かは解らないが未だに、10時、15時になると自動販売機に足が向く。

昔みたいに汗をかくような仕事はほとんどないし、たまに、取材で倉庫作業などをする時以外は、なるべく1日3本までトリミットを決めている。

それでも、まあ多い方だとは思いが、、

実は

僕はもともとが痩せ方なので食に対してはこだわりがないのだ。

昼はカレーしか食べないと決めたら毎日カレーを食べ続けても平気だし、、

今なんかは米が入手困難だから、朝はトーストを食べるけど1日2食はお蕎麦にしている。

その代わりに、、

【缶ジュース】だけはやめられない。

だから365日トータルしたらそんなに節約できてないのかもな？ 笑笑

その昔、

「食べることよりもまずは服と髪型にお金かけて下さい」

とブログに書いたら

「なにわともあれ！ 身体が資本だからやっぱり食べるのが先だろ！」と
面識ない地元民にキレられたことがある。

いやいや！？

それはご指摘の通りなのだが

大前提として【成功を目指すならば】とちゃんと書いたはず。

成功を目指さないならば今まで通り過ごせばいい。

占いにこられる方たちは

自己肯定感が下がった状態でこられる方がほとんどだ。

だから

食べるのを少し控えてまずは痩せましょう。

そして髪型と服を変えるだけで別人になれますよ？

ってことを僕は言いたかったのだ。

まあ

僕が【缶ジュース】やめられないみたいに食を我慢するのは難しいのかもしれないな。

人は置かれてる状況も違うし、そもそも、人生十色で一人として同じ人間はいない。

僕だって

子供の頃にもっと

好きかってにやらせてもらえてたら、、

もって人生違ってたかな？

なーんて想像することもあるよ。

缶ジュースに対するこだわりだってなかったかもしれない。

まずは

ちゃんと塾に行って真面目に勉強して慶應義塾大学へ行きたかったなあ。

なあゝんて思ってたら、、

大人になってからチャンスキター！！

慶應義塾大学ってさ、、

通信教育学部あるんですよ…！？

まだまだ駆け出しのセミプロ小説家だから経済的ゆとりもないので大好きな【缶ジュース】も我慢してコツコツ貯金はじめるかー！ と決心しましたよ。
ええ。

でもこの前の8月27日の高木里代子ヒメの京都ライブの際は【缶ジュース祭り】だったな。笑笑

ライブ前日に京都入りしたんだけどさ

台風の影響で、近場以外

どこも出かけられなかったんですよ！

やることないから、、

まあ〇欲の処理と食べるのと。笑

（40過ぎて〇欲復活してきた。中学生並かも）

食べるつつても、ほとんどコンビニ飯。

あとはひたすら、お茶、コーヒー、炭酸飲料を、ドリンクバーか？
みたいな勢いで飲み倒してた。笑
いやゝ

楽しかったな！ 京都一人旅！！

ドリームワルツも聴けたし♪

ま！

誕生日に大好きな人のライブ行けるってかなり嬉しいよな♪

ま！

ジュースで月に一万円以上費やすって馬鹿らしいって思うでしょ？

でもこれが【蒲田で飲む酒】だったらもっと高くつくよ？？

みんなには言えないような如何わしい店たくさんあるんだから。。

くれぐれも

蒲田でお酒飲む時はお財布に【一万五千円】以上は入れないで下さいね！

理由は…

また！ 今度の機会に。

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

小説家 橋本 昂 祈

未来予想図50歳

宇宙の法則では

願う未来を引き寄せているだけ、と教えている。

だから

今の結果があるのは

誰のせいでもない

過去の自分が望んだ結果が【現在】なのだ。

正確に言えば

望む結果（目標）に対して

アクションし続けるから

誰も予想もしてなかった

素晴らしい未来が手に入る。

宇宙の法則には賛否両論あると思うが、、

僕もおおむね宇宙の法則の教えが

そのまま人間界にも影響していると考えている。

少しだけ【哲学】的な話にはなるが、、

銀河鉄道の夜にて

主人公であるジョバンニが

『ほんとうのさいわいとはどこにあるのだろうか』

と謎めいたことを言う。

これは宮沢賢治が読者さんたちに訴えかけた本質的な問いの究極系だと僕は考えている。

僕ならば

『ほんとうの幸福は自分自身の【心】が決める』

と答えたい。

答えたいのだが、、

宮沢賢治が熱心な法華経の行者だったことを思えば

もつともつと

『自分自身の心よりもさらに深い』

法華経やキリスト教、イスラム、ヒンドウなど

様々な宗教、宗派の壁を超えた

【宗教的寛容の境地】に

達していたのではないだろうか？ と考えるようになった。

かくいう今の僕も

これまで信奉してきた法華経を否定することなく

かと言って100パーセント信じているわけではなく

真っ白なキャンパスのようなピュアな眼差しで物事を観れるようになりつつある。

今まで信じてきたことを

いったんは全て捨てなければならなかった。

それはなぜなのか？　といえば

僕が物書き（小説家）として生きていくことを決めたからである。

物書きである以上は

小説世界での創造主である必要がある。

それはすなわち【神】になることを意味している。

僕の浅知恵かもしれないが、

例えば

キリストを信じているとするなば

救いはあったとしても

キリスト以上にはなれない。

日蓮宗の人ならば

日蓮以上の人物にはなれないのである。

強引で無理がある理論かもしれないが
少なくとも僕はそう考えている。

しかしながら

僕は人間として生まれてきた以上は

古今東西

文学において橋本昴祈に敵うやつはいない
と言わせるだけのチャレンジをしたい！！

そこで自分なりの確固たる哲学を持つ必要がでてきたので、慶應義塾大学通信教育学部哲学科を希望しているのだ。

話は逸れるが、

20歳の時には理想とする30歳像があった。

30歳の時には理想とする40歳像があり

当初の理想通りの人物にはなれなかったのだが
文章でお金を頂けるようになったことは自信になった。

占い④小説のアイデアを形にできたことも根拠ない自信に繋がっている。

2024年8月27日に44歳になったばかりなので良い機会だから自分が望む理想の50歳像を記しておく。

まずは、、、

直木賞獲りたい！！

そのために

大手出版社の新人賞を獲る必要がある。

まあ

新人賞は獲れるっしょ！

すでにセミプロとしてインディーズの実践あるしな。新人賞は時間の問題だけだ。

ツメが甘かったのは

レーベル毎の対策をしてなかったことかな？

まあ

今は慶應義塾大学の受験対策で忙しいから一年に一冊ペースしか出してないけれど、、

高木里代子ヒメが

この先もバンバン新しい作品をリリースしていくことを思えば、今のままのペースじゃとても間に合わない。

だから

来年からは一年に三冊リリースを目標にします！

まあ慶應義塾大学の話が出たので、入学する以上は無事に大学を卒業して50歳を迎えたいかな。

基本的に怠け者だし遊び人の僕だから慶應卒業はかなりハードル高いけどね。笑

同じ遊び人でも、、

レベル99まで極めれば！

賢者にも転職できる！！

（byドラクエ3）

あとはなんだろう？？

直木賞、慶應卒業、、

あとは結婚かな？ 笑笑

まあ諸事情により

一般のサラリーマンの方よりもたくさんお金稼がなきゃならないんですよ。

今のところ貧乏を極めてるけど！ 笑

手相によると

天下取りのマスカケ線と霸王線を持っていて、億万長者にならないのはおかしい、らしいから。笑笑

手相負けせず

無事に億万長者になれるか？

それすらも楽しみ♪

ちなみに

結婚したとしても子供はいらないかな。

よくよく考えたら

作品が自分の子供みたいなものだからさゝ

そりゃ

自分の子供である小説を買ってくれたり可愛がって貰えたら、それが一番の幸せ♪

何よりのご褒美

あと

子供欲しくない理由としては、、
三世永遠を誓えるような恋愛がしたいから。

んで

そんな素敵な恋人ができたら
それが僕の人生のおわり。

でも

自由でいたいし束縛されたくないから
いつも一緒にいなきゃ嫌だ！　みたいなタイプの女性とは絶対うまくいかない。

ってか

占いはじめた一番の理由はそれ。

運命の人を見抜けるだけの知識と知恵、経験体験が欲しかった。

実は僕の星まわりは、、

結婚運が一番飛び抜けてるんですよ！

だから

世界一の小説家になるために

世界一の女性と結婚させてください！

ってのが

僕の昔から変わらぬ願いであり祈り。

果たして

理想の50歳像になれるか！？

橋本昂祈の挑戦は永遠に続く。

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

君は何のために勉強するのか？

最近、認定試験の勉強や仕事の勉強に追われていて少しだけ疲れている。

僕が疲れていると言う時、そういう時は、たいていヤバイ時である。笑笑

ひょっとしたら爆発一步手間なのかも？ しれない。

まあ爆発してしまったとしたら、、

遊びほうけて終わりだから大したことはないのだが、慶應義塾大学入学の目標はだいぶ遅れることだろう。

そこで、自分自身にもこの記事を読んでくださっているあなたにも質問したいことがある。

あなたはいったい何のため勉強しますか？？

うーむ。

一言では言えないな。笑笑

例えば

高木里代子ヒメみたいな慶應義塾大学出身の素敵なスーパーガールと結婚したいから、僕も慶應義塾大学に通うって理由なら、まだ解る気がする。

その昔、ケンケンとゆるニックネームで慕われていた親友が言ってた。

「良い大学に進学していい女と出逢い結婚する。それ以上大学へ行く価値があると思うか？」

うーん。

ケンケン悟りすぎだわ。苦笑

高校三年生の時に言われたんだけどさー

僕はいちはやく高校リタイアしてるから、受検とか関係なく生きてたのでね。

その頃、家に引きこもって何をしていたのか？

といえば

ひたすら、マンガ読んで、ギター弾いて、イラスト書いて、

家族のご飯を作っていたよ。

まあ、少なくとも勉強が嫌いだったわけではないから。

その証拠に、44歳超えてもまだまだ小説家として勉強を続けてるじゃん？？

ちなみに、引きこもりの時に本が擦り切れるまで読んだのは、

高橋留美子先生の

うる星やつら、めぞん一刻、らんま1\2

この3作品をベースに橋本昴祈が作られてると言っても過言ではない。

あとは、僕たちはリアルエヴァンゲリオン世代なので（主人公たちの年齢＝実年齢の14歳だった）イラストは綾波レイちゃんとか書いてたなあ

でもさ！

やっぱり面白いストーリー書くにも、学校の勉強が必要だな！　って感じたんよなあ

話変わるけど、

小説家って頭良いのか？ 問題ってあるじゃん？？

僕はこう思うよ！

全ての教科書は国語をベースに書かれている。

だから、国語ができない人は勉強もできない。

すなわち、言い換えれば、

国語が得意な人は勉強もできる可能性が高い。

Ⅱ小説家は頭が良い

かくいう僕も、小説の師匠の鈴木輝一郎先生から、中学レベルの国文法と漢字の書き取り、高校レベルの文章読解力テストから勉強して下さい！ って言われてさ

小説書けるんだからそんな余裕だろ！ って思ってたら、

全然、問題解けなかった。笑笑

んで、言われる通り国文法を学びだしたら、するすると読解力もついてきてさ

高校レベルのテキストだったら、ほぼほぼ何が書かれてるか？ 何を伝えようとしてるのか？ がみるみる解るようになってねえ

もちろん！

小説家としても一生涯勉強なんだよ。

だからこそ

どうせ！ 勉強するならば国内最難関の私大で学んだれ！ ってのが慶應を選んだ理由のひとつ。

あとは、慶應義塾大学の創設者である福沢諭吉の母が橋本性の出身だったことも大きな理由かな。

そしてなによりも、

蒲田（僕の地元）から三田キャンパスは通いやすい。

（日吉も割と近い）

福沢諭吉の母親が橋本だったってのあんまり関係ないと思うでしょ？

いやいや、

何の為に勉強するのか？

それは！

【自分を知るためだと僕は考えている】

そのためには、父方や母方のご先祖様まで遡って探求しなければならない。

まあ、うちの場合は幸いなことにご先祖様の出自がはっきりしてるし割とちゃんとした家系だから調べただけでござい

そのあたりのこと知リたかったたら、新宿占術師シリーズに詳しく書いてあるのでご参照ください。

んで

橋本家は学歴はたいしたことなくて芸能や技術に優れた家系なんだけど、沖縄の従兄弟たちがまたこれ秀才揃いなんですよ。

3つ下の従兄弟は、琉球大学の院卒で宅建やFPや簿記2級も持ってる。

まあ沖縄って田舎だから学問やスポーツの他にやることないってのもあるけど、

資産家の家柄だし典型的な秀才のお坊ちゃんだよな。

橋本家はおじいちゃんの代で没落したかなあ。

第二次世界大戦もあったしさ。

おじいちゃんは37歳の若さでこの世を去っている。

奇しくも僕の兄貴も37歳の若さで亡くなったし、確か宮沢賢治も37歳だったんじゃないかな？

だからさ、

40歳までは、歯を食いしばってでもどうにか生き抜いて!!

僕も40手前の時期が一番辛かったもん。

40歳すぎたら毎日がハッピーだからね♪

（誰に言ってるのか？ 笑笑）

まあ僕が言いたかったのはさ

僕たちは一生懸命勉強する生き物なんだよってこと。

だから勉強をはじめるのに遅いってことはない。

だって

若い頃は身体が丈夫なんだから勉強するよりも仕事して遊んだら良い！

（早くに結婚したいなら別だけども）

勉強なんてさ

歳とってからでもできるんよな。

（いやマジで。）

でも

歳とってから勉強するための素地みたいなのは若い頃に養うしかないと思う。

何が言いたいのか？ といえば、

遊んでも良いけど本くらいはちゃんと読める大人になろうな！ ってこと。

中卒で第144回芥川龍之介賞を獲った西村賢太氏も本を読み捨てするくらい大量に読んだらしいからさ。

小説家は学歴はいらないけど学力は必要みたいなのですよ。

たぶん西村健太さんみたいな変人タイプの方だったら、ちゃんと勉強すれば東大だって合格できたんじゃないかな？ とすら思う。

将棋の米長邦雄先生なんかは

「三人の兄たちは頭が悪いから東大に行った。私は頭が良いから将棋の棋士になった。」

とはっきり言われている。

この名言を

橋本昴祈流に言い換えるならば、

「将棋差しはAIに敵わないことが判明したが
私たち小説家はAIを使いこなせる。その上AIより面白い小説を書くことができる。」

よって

AIに仕事を奪われることはない。

そのように付け加えておこう！ 笑笑

僕がジャズが大好きなのはさ

例えば、クラシック音楽は間違えないで弾くことに意味があるのだとしたら？ それはCDで聴いて
りや充分満足できるけど、

クラシックやロック、ポップスなどの全ての音楽の究極系であり音楽の王様がジャズだと思うからさ。

だって、その場の雰囲気やノリで即興で音楽作っちゃうんだよ？？

それこそAIなんかじゃ真似できないよ。

んで、ジャズミュージシャンが最高にイケてるし、クールでいい女やいい男たちじゃないですか♪

小説家もねえ

もっともっと

たくさん才能ある方々が参入してくださったら良いのに。

小説家ってこんなにカッコイイんだぜ？

ってのをそろそろ僕たちの世代で満天下に示したい！ 笑笑

だから僕だって小説書く以外に

占いもやるしギターも弾くし、

サッカーや筋トレ

バイクに車

なんだったら料理動画もみせるか？
くらいの勢い。笑

結局はさ！

小学校の延長戦なんだよ。

その昔

大人たちに聞かれませんでした？？

「学校に好きな子いるの？」って。

「将来の夢は？」

「憧れる人はいますか？」

そゝ

慶應義塾大学に好きな人がいたから行くんだし、憧れてる人が慶應義塾大学卒業してるからなおさら負
けられないじゃん。

小説家になる夢は叶えたけど

世界一の小説家になるために慶應義塾大学を選びました、僕は。

40歳からの男磨きはさゝ

どれだけ多くの本を読んで考察したか？

によって50歳になった時に二極化してると思う。

変な話

本を読んでも顔つきまで変わってくる。

もちろん良い意味でね。

さて、僕は勉強するモチベーションは

好きな人のため、好きな人と結ばれたいから

ってことで結論出たけど。

あなたは何のため勉強しますか??

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

おんがくの力

【おんがく】には無限のパワーが眠っていると僕はそう考えている。

僕自身も弾きながら唄うエレキギタープレイヤーということもあるのだが、、

4歳の頃からの幼馴染が人気音楽家として活動しているので、青春時代には【おんがくの力】をより強く感じる事ができた。

僕はもともと

ブランキージェットシティやニルバーナ、レッチリなどのオルタナティブロックが大好きだった。

オルタナティブとは

代わりのきかないとか既成概念を覆すという意味があるみたいだ。

ブランキーは、ロックの中にもジャズ的な要素を感じるし、ニルバーナは徹底的にアンダーグラウンドな世界にこだわった。

レッチリだって、スラップベースがゴリゴリでヒップポップ的な要素を取り入れて成功した。

21歳を超えたあたりからは

ほぼジャズやボサノバしか聴かなくなったのだが、これはなぜか？　というと長くギターをやっているとある日気づくのだ。

そもそも技術的にはクラシックやジャズマンには敵わないと感じるようになる。

かと言って

超絶技巧の速弾きギタープレイヤーに興味は沸かず、

ジャズ特有のグルーヴ

いわゆる【スウィング】ってやつが心地よく感じるようになるのだ。

仕事中は全力で頑張るからBGMは【ロック】とかガンガン聴きてアドレナリン出したいけど、

クリエイティブな作業やゆっくりと過ごしたい時は【ジャズ】や【クラシック】が聴きたいみたいな感じだ、きつと。笑笑

んで、ぼくは

高木里代子ヒメが世界一のジャズピアニストだと信じて疑わない。

根拠はない。笑笑

身内びいきと言われても仕方ない。

ないのだが、

僕が使っている占術で

高木里代子先生を占ってみると、

【世界一のピアニスト】になれるだけの素晴らしい命式をお持ちになって生まれていることがわかるのだ。

正直に言おう！

ピアノを上手に弾ける人など世界に5万という。

高木里代子先生だってピアノはお上手だ。

ただし、

生まれ持った作曲能力だけは誰にも奪うことができないし誰にも真似することができない。

いわゆる

ゼロから一を生み出す力

それが高木里代子さんの特筆すべき才能なのだと思っている。

あ！

気を抜けば、

いつも高木里代子さんのことばかり書いてる。笑笑

幼馴染の音楽家の話を少しだけして終わりにしよう。

はっしーの幼馴染って誰やねん？ と聞かれれば

デフテックのMicro君のことなんですけれど。

デフテックのはじめての武道館ライブの時にね！

「みんなが手を繋ぐまでは俺たちも唄わねー」

って突然言い出したんですよ。

んで

僕の隣にいたのは見ず知らずの女性だったんですけど、、

女性の方から手を差し伸べてくれて

「手繋いでもいいですか？」

ってな具合でね言っ下さって。

んで、みんなが手を繋いだのをステージ上から確認してデフテックは唄いだしたんです。

悔しいけど！

かっこよかったです。笑笑

でも、それ以上に気づきだったのは、、

見ず知らずの人だったから
ぱっと見の外見から判断して

（僕なんかと手を繋ぐの嫌だろうな？）

って勝手に決めつけてた。

けれど、実際には

（私なんかと手を繋ぐなんて嫌だろうな？）

って向こうの方も同じこと考えていたらしい。

本当は繋ぎたかった手と手。

何も解らず

好意あるってサインすら見抜けないまま

鈍感な大人になったんだなぁって思ったよね。

ある日は、酷いことを言って傷つけたこともある。

ヒドイ言葉言われて傷ついたこともあった。

【世の中が平和でありますように！】

って願えば願うほど

すれ違っていく心と心。

だけど気づいた。

僕はやっぱり平和な世の中がいい。

高木里代子さんの

ワンアナザーデイ

を聴いて大切なことを思いました。

一人として同じ人間はいない。

みんな子供の頃は何かしらの天才だったはずだ。

そして金子みすず風にまとめると、

みんな違ってみんないい。

おんがくには

科学では証明できない素晴らしい力があると信じています。

話す言葉だって

美しい言葉を使えばハーモニーにも聞こえる。

だからこれからも

素敵な音やハーモニーを奏でていきたいです♪

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

秋の祈り

最近、運命について深くまで考える機会があった。

運命って変えられないの？

ってよく質問されるのだが

鑑定師としての模範的解答としては、、

【運命は自らの意思と行動で切り開いていくモノ】

として答えることが多い。

ただし

変えられない運命もある。

例えば

【生まれ持ったDNA】

【宿業（カルマ）】

【3つ子の魂100まで】

と言った性格や性質

前世からの課題などは容易なことでは変えられない。

親を選べないのだって変えられない運命の一種だと考えている。

まあ

これには反論もあると思う。

スピリチュアル的に言えば

前世で良い行いをした（徳を積んだ）ご褒美として

生まれてくる環境や親も自分自身で選んで生まれてくると信じている人も多い。

まあ、

ただか44年生きたくらいでは

最終結論はでない。笑笑

良くも悪くも【思い込みの力】や【信じる力】は凄いよねえ〜と言うしかない。

個人的な例でいえば、、

僕の本名である

右文（あきのり）は

【文学において右に出る者なし】

という親の願いが込められている。

だから僕は幼い頃より父親から

「とにかく本を読め！」

と言われていた。

14歳

自我の目覚めと共に色々悩みも多くなり、心が常にカスカスだった。

反抗期なども重なり父親とは滅多なことでは口を聞かないようになった。

まあたぶん、

愛に飢えていたのだと思う。

今から思えば

学生時代もなかなかの人気者だったと思う。

（自分で言うやつ。笑）

自分的には

エヴァンゲリオンの碇シンジ君みたいに

一人になりたいんだけど

周りが放っておいてくれない

みたいな羨ましいジレンマと闘っていた。

でも

僕が欲しかったのはたぶん

父親の愛だったのだ、きっと。

（だからシンジ君かっ…！ 笑）

さて、話を運命に戻すが、

父親の思惑とおり僕は小説家になった。

半ば

親にハメられたに近い感覚だ。

なぜならば

僕はプロのジャズギタリストになりたかったからだ。

しかし

プロのジャズギタリストにはなれなかった。

だから

自分が叶えられなかった

【世界一のギタリストになる夢】を

高木里代子先生に

勝手に重ねているのかもしれない。

とはいえ

僕もロックギタリストとしてはギターが上手いほうだと思っている。

だって

一番楽しいはずだった高校の3年間を捨てて

不確かで不安しかない未来に怯えながら

掻きむしるようにエレキギターを弾くだけしかできなかったのだから。

毎年

8月27日の誕生日から

9月の中秋の名月をすぎる頃には

生まれた日の懐かしさと共に

秋特有のせつなさが込み上げてくることが多い。

出逢い

別れ

また出逢い。

共に世界平和を目指しながらも

想いがすれ違ったまま別れた人もいる。

生きてさえいれば！！

その誤解を許すこともできるだろう。

そう。

生きてさえくれれば！！

それでいいんだ。

願わくば笑顔で幸せならば僕も幸せだ。

「人は死んだらどこへいくんだろうね？」

実の兄貴が亡くなってから

毎日のように

母親からそんな質問を受け続けた。

兄貴も親不孝な男だ。

親より早く死ぬことほど親不孝なことはない
とよく言うが、なかなかの的を得ている。

あれから

幾星霜の月日流れ

母は

「天国って本当にあるんだね！」

と笑って言えるまで回復した。

僕は兄が天国に旅立った日に誓った。

【これからは兄貴の分まで生ききる！】

と。

そして

橋本兄弟は世界一だ！

ってことを全世界にまで知らしめたいのだ。

確かに

親不孝で馬鹿な兄貴だったかもしれない。

しかし

あんなにも男女問わず友人や家族から愛された人間を他に知らない。

兄貴は

【林檎の樹】

という小説がお気に入りだった。

まるで小説世界に生きてるかのよう

に生きて生きて鮮やかに散っていった人生だ。

【文学とは人生そのもの】

それを教えてくれたのは兄貴だった。

【今日のポエム】

秋の風薫る9月

思い返す

秋のいのり

懐かしき日々

感謝のいのり

古より今の今まで

平和の鐘を求め

西へ東へ

勇気の灯を灯しにいく

我、未だ懲りず候

【2024年10月10日】

闇が深ければ深いほど

放つ輝きもまた大きいと…

どこかで苦しむあなたに伝えたい。

世界平和の夢

共々に叶えましょうね？

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

湖上の月

高木里代子ヒメのバースデイライブを配信で観ていてインスピレーションが降りてきた。

高木里代子先生は毎年バースデーライブにはたくさんの新曲を書いて臨むみたい。

今回は6曲も新曲を披露して下さった。

中でも

月と小舟

とゆゝタイトルの曲が無償にせつなくて、

広大無辺の宇宙空間を彷徨い続けるような

壮大なスケールの物語を連想させた。

んで

四柱推命ときには里代ヒメは【丁】という星回りを持っているため、

【丁】とは

キャンドルや月、星に例えられることが多い。

まあ

だから里代子ヒメが書く曲は、なぜか【月】が多かったりするのも占い師的には、

「そりゃそーだよねぇ」

と里代子ヒメの命式をみて納得できるのだ。

んで僕は【壬申の乱】で有名な

【壬】（みずのえ）とゆゝ星回りを持っている。

壬は水の属性を持っていて、陽の性質のため、

海や湖、川に例えられることが多い。

里代子ヒメをお月様にみたて

自分自身を湖としたとき

【湖上の月】

とゆゝ

なんともロマンティックな組み合わせが生まれた。

まあ話脱線するけど、

日中か夜か？

どっちが好き？？

って聞かれたら

間違いなく

「夜の方が好き♪」

と僕は答える。

とはいえ

太陽が嫌いな訳ではない。

太陽の下で

水着でビーチに寝転がり

大好きな缶ジュース飲みながら

チーズバーガー食ったり、

レゲエサウンドが流れ出したら踊る

みたいな生き方も好きである。

が

それ以上に

夜が大好きなのである。。

まあ僕は

小説書いたり、占い師やってたり、セラピストとしての顔も持っていたりするから、、

妖しい世界が好物なのである。笑笑

（神秘的な世界ともいう。）

深夜

なかなか眠れないから

夜通しクラブで音楽ガンガンの中

踊り続ける人たちの気持ちもわからなくもない。

僕の場合は出不精だから

スマホにイヤホン繋いで音楽ガンガンかけて

鏡の前でエアギターをやりつづけるとゆゝ

かなり変わった性癖を持っている。笑

こんなフツメンの僕なんだけど、、

やっぱり

自分自身の顔が一番好きなのだ♪

（親が聴いたら喜ぶけど単なるナルだよね。）

こんな調子だから、、

中学生時代

「キモい」

とか

「右文のやつ勘違いしてるよな」

だとか

女子から言われ続けたのだろう。

昔から

良くも悪くも目立ってしまう性質があるようだ。

まあ

月に纏わるエピソードなんて、腐るほどある。

基本的に【夜行性】の生き物だから

夜な夜な

車の免許取り立ての友達の運転に付き合ったり

夜通し

友達に電話して

どちらかが寝落ちするまで電話きらなかったり

それこそ

クラブに初デビューした日は

女友達を外敵（ナンパ師）からまもるのに必死過ぎて、、

全く踊れなかったことも懐かしい思い出だ。

「ただクラブにビール飲み行っただけじゃね？」

って友人たちから揶揄われたりもした。

とまあ

【湖上の月】

から遠く脱線したので、そろそろタイトル回収して終わろうと思う。笑

高木里代子ヒメを一目みた時から、

なんとなく

「赤の他人には思えない」

という印象を抱いていた。

その直感は半分当たった。

里代子ヒメと僕は

占いで相性が抜群に良いのだ。

そして何より決定的だったのは

里代子ヒメが

慶應義塾大学をご卒業されていたと知った時だ。

僕は里代子ヒメを知る前までは
かなり病んでいた。

地獄の苦しみの中で

「やっぱり漱石よりも諭吉だろ！」

とゆゝ声が聴こえてきた。

僕はすぐさま

（1000円札の方が好きだけだな）

と心の中で反論したが、

その出来事がずっと忘れられずにいて

「たまたま家にあった福沢諭吉の自伝を手にとって読むことにした。

福沢諭吉は幼い頃に父親を亡くしていたらしい。

そして、それよりも衝撃的だったのが

福沢諭吉の母親が【橋本】性の出身だったことだ。

それまで諭吉は嫌なやつだと勝手に思っていたが、自分と同じ橋本にご縁があったことを知り、一気に親近感が沸き、深夜までかけて自伝を読みきった。

そして

月灯の下で思索した。

そういえば

過去にも慶應義塾大学進学を示唆されたような場面が何度かあった。

一度目は高校受験の時。

「ハシはやっぱり慶應じゃない？　なんか解らないけど慶應って感じするよ！」

と中学生時代の親友から言われたことを思い出した。

二度目は

はじめてお付き合いした彼女と別れたばかりの辛い時期だった。

別れ話を切り出されるまでの間に、なんの心変わりがあったのか？　知りたくて、藤沢まで先輩に会いに行った時、、

「今のお前には恋愛をする資格はない。そんなことよりも俺は今、慶應義塾大学に通ってる。お前はど
うするんだ？ もし本当にやる気があるならば慶應来いよ」

みたいに言われた。

悔しかったけど言い返せなかった。

なぜならば

仕事してる僕以上にお金を持っていたのがはじめてお付き合いした恋人だったので、

結婚して幸せにするだけの【財力】がなかったのは明らかだったからだ。

「遊ぶには楽しいけど、結婚はねえ」

まあ、おおかたの女子は僕のことをそんな風に評価していたのだと思う。

まあ

慶應義塾大学なんて夢のまた夢だろうと思っていたのだが、通信教育課程があると知り、

いつかは慶應義塾大学を卒業して元恋人たちを見返してやろう！ ってのが僕のささやかな復讐劇でもあった。

とまあ

高木里代子先生を知る前に、

慶應義塾大学卒業する！

とゆる目標をもっていたのである。

だから

高木里代子先生が慶應義塾大学をご卒業されていることに凄く親近感を覚えたし、

何より

僕が大好きな一青窈さんと同じ大学、同じキャンパス、さらに同じ誕生日にお生まれになっていたとゆ

ゝ偶然も重なりますます高木里代子先生にのめり込んでいった。

【今日のポエム】

遠く遠く

微かに聴こえる

温かな声、ぬくもり

凜とした眼差し

その視線の先

【湖上の月】は

今日も激しく燃える

【88】

モノクロの鍵盤は

まるで宇宙そのもの

あなただけの祈り

聴かせてよ。

その疑いなき

澄んだ瞳の奥

螺旋状に

夜行虫は揺れる。

夏なんてなかったかのように

今宵もまた

恋の予感が

走り抜けて

シャボン玉みたいに

儚く散った。

【ポエム 2024.10.11】

小説家 橋本昂祈

ファミコン世代

僕が生まれた1980年世代は【ファミコン世代】と呼ばれることもある。

テレビゲームの進化とともに成長していった世代という意味がある。

ファミコンは

1983年7月15日に任天堂から家庭用ゲーム機としてリリースされた。

ちょうど僕たちが3歳の頃の話である。

僕んちは父親が職を転々としててかなり貧乏だったから親がファミコンを買ってくれるようなこともなかった。

ある日、兄貴が

「おい！ ファミコンが5000円で買えるぞ！」

というビッグニュースを携えて帰ってきた。

いつもはランドセルを置きに帰ってくるだけのイメージしかなかったので興奮した兄貴を見るのはなかなか新鮮だった。

そして

「お前、2500円出せるか？」

兄貴は幼い僕にファミコン代金の半分の要求してきたのである。

子供たちでお年玉を出し合ってファミコンを買う。

そんな

少年漫画みたいな人生が最高だと思う。

しかし

実際には、、

電気屋のおっちゃんが自宅までファミコンを届けにきたために母親にバレてしまい、、

僕と兄貴は母親から怒られることもなく

「頼んだのなら仕方ないわねえ」

などと言いながら

ファミコンの代金は全て母親が支払ってくれたのである。

これが貧乏人の父親だったら

「こんなんいらねえ！ 帰らせろ！！」

と激怒していたと思う。

まあ

母親は沖縄の実家や叔父さんからちよいちよい仕送りして貰ってる身分だったから、真面目に働いている父親よりもお金を持っていたのかもしれない。

なにはともあれ！

僕たち兄弟は念願の【ファミコン】を手にしたのだ。

生まれてはじめて

【スーパーマリオブラザーズ】をプレイした時の感動♪

「おい！ マリオだよ。マリオがうちに来たよ！」

まるで芸能人が突然うちに遊びに来たかのようなはしゃぎぶり。

庶民最高♪

と感じたよね。笑笑

だって

マリオのおっさんごときで

こんなに祭りのように騒げるんだよ？

ドラクエ3が来た日には、もう！

言わずもがな

「最高♪」

の一言に尽きる。。

ドラゴンボールの鳥山明さんがキャラクターデザインを担当し、世界のすぎやまこういち氏が音楽を担当した名作中の名作。

ああ将来は

ニンテンドーに就職してえ！

って思ったよね。笑

でも

僕はやっぱり

ファイナルファンタジーの方が好きだな！！

なんかよく解らないけど、

ドラクエは松田聖子さんで

FFは中森明菜さんって感じしない？

なんかよく解らないけど、

生まれ持って【中森明菜派】だったんだよねえ

太陽か月か？

みたいな。

絶対

妖しい方が好き！！

ミステリアスで楽しいじゃんね？

（誰に共感を求めているのか。笑）

ジャズの世界でもさ、

上原ひろみさんか高木里代子さんか？

みたいな。笑

いや

絶対的に俺は

【高木里代子】さんを応援したいなあ

別に

上原ひろみさんのピアノだって好きだよ？

けど

ファイナルファンタジーの方が好き♪

（まさかの高木里代子先生をFFに例えるとゆゝ）

まあさ！

僕たちは昭和の古き良き時代も

9年しか生きてないけど、

なんか！ 好きなんよ、昭和。

例えば

高倉健さん主演の映画を観たら

みんな高倉健さんみたいになっちゃうみたいなさゝ

日本人のそゆゝ

テキトーなところ大好き。笑

ってか

なんの話だっけ？

すぐ話脱線して

二度と本筋には戻らない男だから、

どうせ

たいしたオチもないんだけどねゝ笑

どうせブログ書くならば

意地でも高木里代子ヒメに絡めて書いてやろう！ みたいな、ゝ

だから話脱線しちゃうんだけどねゝ

でも

いつかは高木里代子先生がブログをみて下さったらやっぱり嬉しいじゃないですか？

いつか書こう！

よりも今のうちがいいですよ。

高木里代子先生は、たぶん

海外進出も視野に入れてると思うから。

大切な人に

大切な想いを伝えたい。

少しでも笑顔になってもらいたい。

その小さな気づきから

やがて名曲が生まれるかもしれないのだから。

と

僕は信じてます♪

高木里代子先生は、ひょっとしたら

スーパーファミコン世代かもしれないのだが。。

まあ

現実と仮想現実を行ったりきたりした世代ゆえに

クリエイティブなことやらせたらファミコン世代が世界一だよねって言って貰えるように、日々、精進
していきたいです♪

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

ジャズクラブ

先日、念願だったおひとり様【ジャズクラブ】デビューを果たした。

しかし実は、行く前まではかなりドキドキして緊張していた。

僕はポジティブな割に

最悪の状況を常にイメージして備える癖があるので、おひとり様ジャズクラブデビューにあたってはかなり準備していた。

カードで決済できなかった時のために現金を用意するのは当然のこととして、、

着ていく服装や持ち物など細かい部分まで入念に準備を怠らなかった。

まあはじめてのジャズクラブデビューが高木里代子先生のライブだったので、着る物に関しては、高木里代子先生とカンゴールリワードのコラボTシャツを着てれば問題はなかったのだが、、

たぶん

空調の関係でライブ会場に長くいると冷えるだろうと予想して上着が必要だということになった。

ユニクロで買った夏用のジャケットを着るか？

それとも高木里代子先生オリジナルのパーカーを着ていくか？？

たぶん

お洒落にみえるのはジャケットの方だったと思うが、ステージ上の高木里代子先生が観て一番映えるのは、パーカーだろうと思ったので、それを着ていくことにした。

席は自由席となっていて来た順番で好きな席に座ってよいとなっていたが、僕は一番後ろの席の方が都合が良かった。

なぜなのか？　といえば

僕はたくさんお水を飲む関係でトイレが近いので
たぶんライブ中にも席を立つであろうことがわかりきっていた。

だから、後ろの方の席でトイレに行きやすい席の方が安心してライブを観れるだろうと思っていた。

まあ、おひとり様での【ジャズクラブ】はじめてと書いたが、、

ビルボード横浜や地元蒲田の区民ホールなどで高木里代子先生の生ライブに参戦しているから、行けば
なんか良いことあるだろう！とは思っていたが、それでも【本格的なジャズクラブ】デビューという
のは、僕にとってハードルが高いライブだったことは間違いない。

なぜなのか？ はよく解らない。

だって僕自身、

音楽が大好きなので

友達に誘われれば積極的にライブに参加する人種だからだ。

これまで参加したライブは、、

パンプオブチキン

オレンジレンジ

デフテック

氷室京介

バクチク

GLAY

ブライアンセッツァー

ステイニング

エリッククラプトン

ロックバンドのライブが主だったので、割とキャバが大きな会場なら安心という考えがあった。

ロックバンドのライブは

かなり人気あるアーティストでも

チケットさえとってしまえば

それ以上はお金をとられないという安心感もある。

ジャズが敷居高く感じてしまうのは
お金を使おうと思えば幾らでも使えてしまうからなのだと思う。

例えば

ビルボード横浜のライブは

一番安い席で

5900円Ⓖ（2ステージ）

11800円

プラス飲食代金がかかった。

なかなか！ 良い値段設定である。

僕は、ビルボードに行く際には

財布に現金【5万円】を入れて臨んだ。

大好きな高木里代子ヒメの集大成ライブだったから、何がなんでも！ 参加したかったのである。

ここまでくると

もはやお金の問題ではない。

実は、

体調が万歳ではなかったのです、

もしも具体が悪くなったら

タクシーで帰るか？

ビジネスホテルに泊まるか？

という最悪なケースまで想定していたのだ。

とまあ！

ことお金のことで言えば

割と高値の華のジャズライブなのだが

僕はこう考えることにした。

仮に

地元蒲田で友人たちとお酒を飲むとする。

一次会の居酒屋で5000円

二次会のスナックで2万円

三次会の〇〇で、。

ああ

お金のことだけで言えば

地元で飲む酒の方が高くつくわ！

ってことで解決しました。笑笑

まあさ！

好きな人のためならば

幾らでもお金使いたいんよ。

だって

【ジャズクラブデビュー】と書いてるけど、

実は、ひとりで京都へ行くのはじめての経験だったのだよ。笑笑

（もともと引きこもりで出不精だからね）

新幹線ってけっこう金かかるって知って衝撃的だった。

だって、

羽田から沖縄行くのと蒲田から品川経由で京都行くの、

謎に京都行く方が高いんだからね！ 笑笑

宿泊代だってタダじゃないしな。

そうまでして！

京都へ行きたいと思わせてくれる

高木里代子ヒメ最高♪

やはり

こういう体験ってプライスレスだよ。

その割に、

僕は高木里代子先生の【無料ライブ】には行かないことに決めている。

すでにアルバム持ってるしさゝ

ツーショットチェキ

つつたって！

高木里代子ヒメのビジュアルが良いのは解るけど

僕が求めているのは、そこじゃないしなあゝ

純粹に

高木里代子先生の生き様が好き。

そして

その【生き様から溢れ出る音楽】が大好き。

んで

【ジャズクラブ】とゆゝのは

そういう熱い想いを共有するファンが集まるのでかなり心地よい♪

行けば絶対に良い気持ちになれる！

こういう

非日常の体験が小説としての感性を高めてくれる。

でなきゃわざわざ

東京から京都までライブ目的では行かないよ、フツゝは。

【ジャズクラブ】に初潜入してみても一番気づきだったのは、ゝ、

アーティストさんとより近い距離で話せる機会もあるってこと。

京都ライブでは高木里代子先生とはお話しできなかったけど、ファンの方たちと交流を持つことができ
て嬉しかった。

お客さまの一人が、

「ジャズって心があったかくなりますよねえ」

って話かけてくれてめちゃくちゃ共感した。

ジャズクラブデビューしてみて

本当に良かったと心の底から思う。

行く前までは、色んなこと考えて

行かない理由を探していただけに思う。

でも

行ってみたら世界が180度変わったよ

何事も経験に勝るものなし！

アパホテルもさ

一カ月前くらいに予約すれば

6000円くらいで取れるんよなあ

新幹線も同じ。

一カ月前の予約ならば

グリーン席の方がお得♪

将来的には

自由自在に里代子ヒメを追いかけるだけの自由が欲しいなあ

経済的自由
精神的自由
時間的自由

それを叶えられるのが小説家としての成功だね。

さて

慶應義塾大学に向けて頑張るか！！

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

異性に護られる男

僕には3歳年上の姉がいる。

そのせいかな？

女性に対して変な幻想を抱いたことはない。

大人になってからは

些細なすれ違いからあまり口を聞かないような関係性になってしまったが、、

小さい頃は

まるで一国の王子様のように

とても可愛がってくれたものだ。

姉は中学生の時

陸上1500m走で華々しい活躍をしていたそう。

区大会で2位になるほどの実力者でありながら、高校では陸上部に入らずにアルバイトをして普通の女子高生の青春を選んだ。

僕が姉から護られたなぁと感じるのは

橋本先輩（僕の姉）の弟というだけで勝手に先輩たちから可愛がって貰ったからである。

姉は基本的に

真面目を絵に書いたような女である。

姉が中学生の頃

毎日部活に参加して散々走って帰ってきたとゆゝのに、夕食が済んだらジャージに着替えてまた走りにいく。

そういえば

夏休みのラジオ体操も

毎日参加するタイプの姉であった。

僕もけっこう自分のこと真面目なタイプの人間だと思って生きてきたが、

夏休みの宿題はギリギリにならないとやらないし、ラジオ体操なんてダサくてやってられないし。

なんなら僕の夏休みは

お菓子食いながら【タッチ】の再放送を見て

その後はごろ寝するだけの怠け者なのだから。

話は脱線するが、今ちょうど

蒲田ジャズロックシティのMiyuが横浜のお父様のもとへ帰省しているため、

僕んちはYouTubeも撮影できないくらい散らかっている。

（爆弾でも落ちたのか？と錯覚するくらい。）

常日頃から

Miyuに頼りつきりに生きてるのじゃ、

こげー！ いなくなってみると

Missのお陰で小説家になれたんだよね」と
そのサポート力に感謝している。

んで

忘れないうちに書いておこうと思うが、

姉や母親やMissだけでなく

なぜかは解らないが僕は

女性からのサポートを受けやすい星の下に
生まれたようなのである。

実は車の免許取る時も、

総額にして約25万円かかるところ

あと10万円が足りなくて姉に相談してみたら、

気前よく10万出してくれたりしたし

それ以外でも姉には散々助けて貰った。

母親は、自身はパート社員という身分なのに
アパートを借りる初期費用の50万円も出してくれた。

まあ母親は沖縄からの仕送りをコツコツ貯めてたっぽいけど、叔父さんは沖縄県内で無双状態なので、一
甥っ子である僕なんかの大学費用を出してくれるほどの器大きな人間である。

母のオネエ様だって一甥っ子にすぎない僕なんかに書籍を下さったり活動費を援助してくだったりして
るから、かなり可愛がって貰っているなあと感じる。

まあ細かいことを言い出せばキリがないので
次の機会にお話しさせて頂く。

家族や親族だけでなく

なぜか？

目上の人から可愛がられるのは
たぶん僕が末っ子だからだろう。

昔から母親からこう教えられて育った。

「何かあったら周囲の人に聴いたり助けて貰いなさい。」

んで

実際にその教え通りに生きてきた。笑

でも、これが

人によっては【他力本願】的に聞こえるらしい。

「社会に出たら誰も助けてくれない」

とゆゝのが、彼、彼女らの主張だ。

しかしながら

人と人はお互い支えあいながら生きている。

例えば

僕が深夜に缶ジュース飲みたくなって買いに行く時にふと思う。

（ああ。外に出られるってだけで幸せ）

（夏の暑さにもマケズ補充してくれてる人がいるから缶ジュース買えるんだよねあゝ）

他力本願でも

人に感謝できる人間になれたのだから

それでヨシ！ とするべきではないか？

そして、絶対正義や自力本願を信仰してる人は
いつかは傲慢な人間になる。

「俺の言うことが絶対正しい！」

と

そのような間違えた思想・宗教観のせいで

いったいどれだけの人間が

無実のままこの世を去って行ったことだろう。

価値観の押し付けからは

何も生まれやしない。

お互いの違いや個性を認め合うような時代だ。

「女に助けてもらうとか情け無くねえのか？」

と言われたとしても、

（よっぽど人気ないんだな？ 可哀想な人）

とは思えない。

もはや生き方が違い過ぎて

話すのも無駄だったりする。

自力を使っても解決しないなら、

他者様の知識や知恵を

お借りするしかないんじゃないかな？

そうやって他者様から良くして貰えたり大切に生きて貰ったから、僕だって他者様に愛を還元できるのだ。

世の中には

傷つけ合うだけの人もいる。

けど

生まれた時はたくさんの愛によって護られていたはずだ。

今

生きていられること自体がキセキだ。

それは

ちいさな小さな気づきだったかもしれない。

しかし

やがてその小さな気づきが

世界を変えるのかもしれない。

世界平和といえ

嘘になるかもしれないけれど、

世界が優しさで満たされますように。。

小説家 橋本昂祈

ルーティンの力

今日は僕が敬愛している

高木里代子先生のブログから

【ルーティンの力】という

ブログネタをお借りして書いてみます♪

高木里代子先生も書いてたけど、、

やっぱり習慣って凄いよね!?

ってか

高木里代子先生の場合は、さすが!

慶應義塾大学の大先輩だから、

TOEFL 3800とゆゝ

英語検定の問題集を1日2ページコツコツやり続けて一年で1.5周したとか書いてあってさゝ

僕なんか取り組んでる

英検3級から準2級の英単語とは
レベチだよ。

高木里代子先生は

短期留学も視野に入れてたらしいけど
コロナの影響で白紙になったみたいね。

僕の場合は、

慶應義塾大学卒業するとゆゝだけの目的で
英語検定を勉強してます。

んで勉強は

毎日のことだからさゝ

最初は本を読むだけで
すごーく眠くなってしまうゝ、

気づいたら朝だった！
みたいなケースが多かったんだけど

1日1ページでも良いから毎日続けよう！
って決めて

根気強く取り組んでみたら
集中できる時間が徐々に増えたし
テストの点数も上がってきた。

こうして
44歳になっても勉強を続けている自分のことを
15歳の頃の自分に伝えたいよ。。

もう来年で30年になるのか？

15歳で高校リタイアした時は
お先真っ暗だったよなあゝ

高校辞めて大工見習いやってたら

Fラン大学生にもバカにされたし。
(けっこう根に持つタイプ。笑)

気にしないで良いよ

お前はいづれ慶應義塾大学へ行く運命だから。

ま！

1999年問題とかあって

平成の時代こそ

世紀末思想が蔓延してて
ちょっとしたカオスだったよねゝ笑

僕の場合は

大工見習いもうまくいなくてさゝ

だからこそ自叙伝の

3歩進める時もある。

みたいな感動的な人生大逆転劇が生まれたのだが、

その頃のルーティーンといえば、

1 家族のご飯をつくる

2 ギターを弾く

3 マンガを読む

4 イラストを描く

5 ポエムを書く

の5パターンで形成されてた。

何気に今でも役に立ってるのは、

1 家族のご飯をつくる

だよね。。

やっぱり一人暮らしでも自炊した方が
経済的に良いんよな。

まあ

自炊っても、、

旬の野菜とお肉買ってきて野菜炒めと

レンジで温めるだけのパックご飯とか、、

それすらめんどくさかったら

パスタに絡めるだけのソース買ってきて

パスタ茹でて食うか

カップラーメンか

みたいな感じ。

ぼくんちの上に住んでるMiyuと一緒にご飯食べる時なんてのは約1.5人前を半分こして食べてる。

Miyuは痩せ型な上に美容マニアだからご飯あんまり食べない。

んで

デーブーになってしまった僕はダイエットしなきゃならないので、1.5人前を半分こして、空腹時には麦茶をガンガン飲んで紛らしてる。

話脱線するけど、、

うちのちょっとした贅沢は

【ステーキ】って決まってるんよ。

でも

前述した通り

僕は美容マニアで僕はダイエッターなので、ステーキ肉は一人前しか買わない。

その代わりに

カット野菜とキノコ類を多めに買ってきて、炒めて、ニンニク醤油で食べてます。

その時だけは

白飯を1.5杯食って良いとゆる謎ルールがある。

ってかさ！

僕は名実共に【もやしっ子】だったから。

もやしと卵の炒めものさえあれば、飯何杯でも食べれるので、、

「もやしが好き♪」

ってゆくと母が謎に喜ぶんよ。笑笑

ってのはさ、

あんまりお手伝いしない子だったから、買い物にも行かないし、もやしの値段知らなかったんよねえ（父親にはよく買い物付き合わされたが、値段なんて気にしてみてなかった。）

もやしってどんなに高くても

100円もしないじゃん？？

あとはたまごさえ食わせとけば大丈夫だろ？

みたいなさ」。笑笑

末っ子なんてそんなもんだよな。

「武士はくわねど高楊枝」

ってことわざが謎に好きだったんよねえ。

ま！

太り過ぎが原因で病気になって死ぬとかさ

マジ笑えないよな。

んで

習慣なんだけど、

法華経を信じられなくなった理由の一つに

悪いことが起きて当たり前

良いことがあるのが不思議

とゆ

一文があつてさ。

僕の場合は

良いことがあつて当たり前

悪いのが不思議の人生だったから。

法華経を信じてた時は

毎日が悪いことばかり起きてた気がする。

または

悪いことが起きそうな予感が常にしていた。

今までうまく行かなかったならば、

潔く捨てる決断をしなければならない。

思考のルーティーンをポジティブに変えてみたら

意外なほど！

生きることが楽しくなってきた。

人生に否定など要らない。

みんな生まれた時は何かしらの天才だった！

僕は長く文章を書ける才能を見つけたよ。

そして

それを生涯かけて大切に磨いていこうと思う。

どんな人にも

等しく与えられた

神さまからのギフトがある。

あなたは才能のありかに気づいてますか？

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

生みの苦しみ

僕は今、小説の執筆に取り組んでいる。

2作品同時進行なので頭の中がパンクしそう。

しかも、占術師アキラシリーズの執筆も加わったら、3作品も書くことになる。

高木里代子ヒメのピアノ聴きながら乗り切ろうと思う。

里代子ヒメと言えば、、

里代子ヒメをモチーフに制作した楽曲たちがYouTubeにて話題を集めている。

ほんの軽い遊びではじめたYouTubeだったが、90日間で約7000人の方が遊びに来てくれるくらい人気のコンテンツになった。

蒲田ジャズロックシティのMiyaが、iPhoneのガレージバンドで作曲してきたトラックに、僕が歌詞とメロディーをつけてほぼファーストテイクで歌った

シリウスの誓い

とゆゝ楽曲も、なかなか好調で

YouTubeのオススメにもでてくるくらい

多くのユーザさんにリーチして下さったようだ。

とまあ

小説の執筆は、かなり頭を使う作業なので、たまにはこんなお遊びして脳を休めないとやってられないのである。

小説の執筆をはじめると、5キロくらい痩せる。

ご飯大盛りは当たり前で

おやつや夜食まで食べてるにも関わらずである。

脳という臓器はコスパが悪い。笑

さて、まだまだ作業が残ってるので

タイトル回収して早めに撤収しようと思う。

自叙伝がなぜ？

たった1週間ほどで333枚書けたのかといえば

それは全て実話だからである。

実話だから話の終わりも見えてるし

一番重要な【転】さえ思いつけば、幾らだってページ数稼げる。

しかし、小説の執筆はフィクションなので

なかなかそううまくはいかない。

なぜなら、小説の場合

起承転結を思いついたら、いきなり

【転】から書いてしまうから。

まあ、作家さんによって様々な書き方があるとは思いますが、鈴木輝一郎門下生の場合は、いちばん盛り上がるシーンから描き始めることによって、作家自身を追い込むという執筆方法を推奨されている。

話は逸れるが

深みのある話というのは、ある程度、年齢を重ねて経験や体験しないとできない。

小説世界では

40歳過ぎてからでないと面白い小説は書けないと言われている。

だから、一般文芸の世界では、40歳後半でも、まだまだ新人扱いなのだ。

生みの苦しみといえ、一般的には、出産を意味するであろう。

自分の命と引き換えにしても、子孫を残そうという女性の本能に頭が下がる思いだ。

クリエイターの生みの苦しみは、時に精神を病むくらい暗い。

精神が病むということは、生きている日常風景すらも地獄に錯覚してしまう状態に陥ることを意味しているのだ、

生きながらにして廃人になる可能性だってある。

それに、作品を作っている最中は、誰も賞賛してくれない。

想像を絶するくらい孤独な闘いだ。

しかも、作品が出来上がったとしても、作品の評価が悪ければ、大袈裟かもしれないが死にたい気持ちにもなる。

絶望。

早々と小説家になることを諦めた人も

小説家として生き残っている人も

同じく絶望を経験しているはずだ。

僕だって同じだ。

自叙伝を発表したことにより、一部の読書さんからは痛烈な批判を受けた。

書くということは【思想】がなければ書けない。

自叙伝に込めた【世界平和の夢】

この信念を曲げた時

僕の死を意味する。

だから

批判や迫害にあおうとも

自分自身の信念を曲げるわけにはいかなかった。

お陰様で、

3歩進める時もある。

とゆ〜エッセイ集は

今もお

ダウンロードされ続けていて

生きてて良かったな〜と

心から感謝できるようになった。

まあ

こうして執筆が続けられてるのは、作品を読んで下さる読書さんに恵まれたからだ。

生みの苦しみに耐えられるのも

早く作品を完成させて

みんなの笑顔がみたいからだ。

ありがとうございます♪

さて、今夜は何ページかけるかな〜？

文学の神さまに祈るような気持ちで

日夜、執筆に挑んでいます。

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

全てに感謝。

一生の恩人

僕には【一生の恩人】と言い切れる人が3人いる。

自叙伝

3歩進める時もある。

に登場する『新城』（仮名）という男と

蒲田ジャズロックシティのMira

そして

大好きな高木里代子先生である。

まず、新城という友人は

思春期に引きこもりだった僕に

法華経を教えてくれた。

蒲田ジャズロックシティのミヤは、

僕に小説家になることを勧めてくれた。

そして

敬愛する高木里代子先生は

僕がずっと憧れだった

慶應義塾大学進学へ導いてくれて

さらに

夢の叶え方を教えてくれた。

他にも恩人と言える人はたくさんいるのだが、

僕の人生を180度変えて

予測も予想もしてないほど

良い方向に導いてくれた

という意味での恩人は

新城とミヤと高木里代子先生の3人なのだ。

当然の如く感謝しているし、

ミヤと高木里代子先生のことは毎日

健康と長寿、最大の幸福者になるよう祈らせて頂いている。

（新城は自分で祈れる奴だからあえて割愛した）

とはいえ

僕って素直になれない奴なんですよ。

好きな人に面と向かって

好きですって言えない中学生みたいに

天邪鬼でさ。

でも

僕は姉がいる兄弟の末っ子だから

女性の心を察するのは上手いと思ってたけど

どうやら

もっともっと勉強が必要みたい。

男と女では脳の仕組みが違う。

理詰めで考える男に対して

女性は共感して欲しい生き物。

だから

正論など求めていないことなんて百も承知。

でも

明らかに間違えた方向に向かっている時は、

相手が女性であっても

言わなきゃならない時がある。

なぜならば

相手のことを心から愛してるから。

または

夢を叶えて欲しいから。

だって

夢叶えた方が嬉しいじゃん？

だから

男はしばしば
女性から激しく嫌われる。

でもね。

男女共通して言えることがある。

怒るとか叱るって
すっごいエネルギー要るんですよ。

どうでもいい人だったら
最初から無視しておしまいですよ。

んで、僕は

一生の恩人である3人にも
苦言を呈して嫌われたことがある。

とはいえ

僕が1000回悪いのは明らか。

例えば

新城という友人は

小説家になることが夢だと言った。

だから僕は夢の叶え方をアドバイスした。

単純に小説家になりたいならば

たくさん本を読んで

たくさん小説書くしかない。

そのことを口を酸っぱくして

新城に言った。

『お前の作品が見たい!』と言い続けた。

しかし

彼が求めていたのはそこではなかった。

新城は

本当は自分が小説家になりたいのではなく

小説家になりたかった僕に

夢を叶えて欲しくて

『小説家になりたい』

と言って協力していただけなのだ。

ならば最初から素直にそう言え!

という話だが、

このことがきっかけで

新城とは一時期疎遠になった。

その渦中と言えば

彼には裏切られたと思っていた。

心の底から新城のことだけは許せなかった。

半ば

顔を見ることが嫌だったから

携帯電話も着信拒否にした。

しかし

僕が悪かったし子供過ぎたのだ。

新城の深い【愛】に気づかず

ずっと遠回りしてきたのだ。

嫌われても良い覚悟で

法華経を覚えてくれたことを。

そして

21歳の出会いから今まで

人知れず陰で

『僕の幸せを祈っていてくれた』

ことも。

世の中には悪い奴もいる。

集まれば、人の陰口ばかり叩いて

自分自身では何もできない人たちだ。

そして、悪の結託は脆いことに気づかず
地獄を彷徨うような人たち。

しかし、新城は違った。

誰に何を言われようとも

僕の可能性を信じて祈っていてくれた。

ミヤや高木里代子先生だって

僕なんかよりずっと精神的に大人だ。

特に

高木里代子先生のこととは

一生涯かけて夢を応援させて頂く決意だ。

いづれ僕は

日本とアメリカを拠点に活動するはずだ。

ミヤや新城は

日本に残る選択をするだろう。

だから

祈りの中でメッセージを届けたい。

高木里代子先生は

ブルーノートNYに出演されることが夢らしい。

僕は小説家として

または

慶應にゆかりある一人の男として

高木里代子先生の夢を応援し続ける。

なぜならば

小説の十六夜の占術師や

月下の占術師だって、

高木里代子先生の作品がなければ
書けなかったのだから。

そして

慶應義塾大学に通う夢を与えてくれたのは
他でもない、

高木里代子先生だ。

どうやって3人に恩返ししたら良いか？

たとえば

僕自身が小説家としてビッグになることだけだ。

小説家として有名になれば

世間への影響力も増すだろう。

そうして

高木里代子先生の

人間性や作品の素晴らしさを僕が語るのだ。

ゆくゆくは

高木里代子先生に許可を貰って

高木里代子先生の作品からインスピレーションを得て、小説を書きたい。

その作品が映画化されて

日本アカデミー賞などを受賞できれば

もっともっと夢は広がる。

あの日、

君に語った夢に何一つ嘘はない。

僕は遠回りしたけれど

小説家になる夢を叶えたよ！

今はまだ売れないセミプロ作家かもしれない。

けど！

僕は絶対に叶えみせる！！

直木三十五賞

慶應義塾大学卒業

ゆくは

65歳で純文学を書き始めて、

ノーベル文学賞まで。

橋本昂祈の夢はまだまだ続く。

あなたにとってかけがえのない人は誰ですか？

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

古代文明の不思議や宇宙について

この世の中は不思議で満ち溢れている。

そう思いませんか？

例えば

ギザの大ピラミッド建設のシークレット

占いはなぜ当たるのか？

などなど。

宇宙に思いを馳せる時

出逢いや巡り合いの不思議について

いろんなことを妄想します。

例えば

父親と母親が出逢ってなければ

僕は生まれてないわけですが

父親と母親が出逢ったのは

偶然のようदैいて

実は必然的だったのかな？

なーんて

思うわけです。

僕の母親は沖縄生まれですが、

長いこと米軍統治下の沖縄にて育った世代なのです。

僕の父親は東京都大田区池上の生まれ育ちです。

二人が出会う確率はかなり低かったはず。

1972年に沖縄は日本に返還されました。

それにより

本土からも気軽に沖縄へ旅行できるようになったそうです。

父親は沖縄のゴルフ場にて僕の母と出逢った。

まあ

そこからはトントン拍子に二人は結ばれて

結婚までもスムーズに話がついたそう。

そして

僕たち3兄弟は

この世に生を受けた。

まああんまり関係ないけど、

時代が時代ならば

僕は琉球と日本のハーフとして生まれてきたことになる。

でもさ～

むかしむかし

アフリカ大陸で人類が誕生したわけだけど

その頃には

人種による差別もなかったはず。

日々を生きること一杯。

大自然の脅威に怯えながら暮らしていた。

その中で、

祈りは生まれた。

人間がさゝ

山や海や森や川の前で

手を合わせて祈るのって

ごく自然な行為だったと

僕は思うわけ。

だから何ってわけじゃないけど

例えば

病気の時には健康の人が羨ましく感じるように、

大切なことほど、

忘れがちだったりする。

健康で生きてられるのは

当たり前のことなんかじゃない。

お米を作ってくださいる農家さんにはじまり、

物資を運んでくださる方たちや

それこそ

健康無事故をお祈りしてくださいるお坊さんまで

この世の中は

意味のないことなんて何一つないと思う。

まあ

犯罪を犯さない限りは何をやらかしても

笑って許せる。笑

でも

犯罪者だって

犯罪を犯した理由を聞くまでは

罰せられるべきではないと僕は思うし

そもそも

人間が人間を裁くなんて

どーなん？

って中学生の頃からずっと思ってきた。

支配者は

神にでもなったつもりか？

なーんてね。笑

まあ

そんなどーでもよいとして。笑

この広い地球上にて

人口も80億人もいる中で

こうして

リアルで出逢えたキセキ。

たった一人だけでもいい

心の底から

愛してまうと言えるようになるまで、

僕たちの旅は

続いていくのだろう。

愛

この世に生まれて

そして

死にゆくまで。

数々のキセキに包まれて、

目一杯

地球を楽しみたいね！

所詮は神々の演劇

僕の人生における失敗なんて

今となりや誰も覚えてやしない。

失敗するのは恥ずかしいことじゃない。

ただ

チャレンジするべき時に

一人立たなければ

それは

全財産を失うよりも

不名誉なことだ。

今日もチャレンジを続けましょう！

【今日のポエム】

神々の宴にて

飲めや唱えやの大騒ぎ。

鳥も踊りだす

今宵

東京の空模様。

やがて恋に堕ちるまで、

幾千の試練に打ち勝ち

幾億の星を数えて

夢は泡沫、

遠い夏

小説は

夢かりアルか

または仮想現実なのか。

事実は小説よりも奇なり。

今日もお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

引きこもりとエレキギター

僕は思春期、自宅に引きこもる少年でした。

今日は

僕がエレキギターをはじめた
きっかけをお話しようと思います。

中学3年生の時に、ギャル風の女子グループから

「キモい」

と言われ続け

ノイローゼのような状態のまま

学校や塾に通ってました。

高校進学すれば

明るい未来がやってくるはず！

そのように

自分自身に強く言い聞かせてました。

しかし

高校進学後も

女子からの精神的なイジメは続きました。

僕は激しい怒りを覚えると共に

虚無感に苛まされた。

友達以外の人間を信じられない

人間不信のような状態になりました。

その後

自分の意思ではじめたコンビニのアルバイトは
自由な感じがして僕の性に合っていたのですが、

僕の将来を案じた父が僕に内緒で
勝手に大工見習いの話をとりつけてきたのです。

大工の見習いは

はじめは楽しかったです。

はじめて吸ったタバコのフレーバー。

はじめて親方の付き合いで飲んだビール。

はじめてノコギリで樽木をきった日

その全てが

今となれば全て輝かしい思い出。

しかし

僕は中性的な文学少年だったため

現場の雰囲気馴染めず

けっこう陰口やイジメにもあいました。

結局は

約3ヶ月で大工見習いを辞めてしまったのですが、

働いて得た少ないお給料で

通販でエレキベースのセットを購入した。

ですから

僕が生まれてはじめて自分のお給料で買った楽器はギターではなく、ベースだったのです。

なぜ？

エレキベースを選んだのかといえば、

友達の大半はギターやボーカルなど、花形のポジションをやっていたので、僕がエレキベースが弾けるようになれば、みんなでスタジオに入って楽しめると思ったからです。

エレキベースは基本的に

一音一音をしっかりと鳴らします。

例えば

ギターやピアノは和音やコード

つまり複数の音を同時に鳴らすことが魅力の楽器なのです。

それに対してベースはリズムが命ですから

シングルトーンでピック弾きする練習がメインとなります。

ギターをはじめるにも、ウクレレをやるにも

僕の場合では、エレキベースの練習がかなり活かされたってわけです。

ベースをはじめて3ヶ月ほどで、簡単なコード進行の曲ならば弾けるようになりました。

んで、友人たちと地元の音楽スタジオや世田谷の奥沢のスタジオで音を合わせて楽しめましたよ。

まあ

大抵は音楽祭などのイベントのためだけにバンドを組むので、高校卒業したら楽器から離れるってのがふつうなんです。

でも、

僕の友人たちはプロ志望の子もけっこういて
大学や専門学校に通いながらバンド続けたり
フリーターとして働きながら楽器を続けたりして

その仲間うちの中で、大出世したのが

皆さまもよくご存知の

デフテックのMicro 君なんです。

まあ、Micro 君の話は散々してきてるから
話をギターはじめたきっかけに戻しますが、

僕は基本的に引きこもりの子だったので
目立つことが嫌いということもあり
なかなかライブの舞台に立つことができずにいた。

そんな悶々とした時期に
たまたま親友がエレキギターを安価で譲ってくれたのです。

よくギターをはじめるときっかけで多いのが
女子からモテたい！ って理由。

まあ僕も

恋愛至上主義の青春時代を過ごした人間だから

少なからずとも

女子からモテたい！　って思ってたかもしれない。

（あんまりよく思い出せない。笑笑）

けど

ギターとかはじめたら解るけど

挫折していく人の方が多い世界で

一曲でもいいから弾けるようになるまで

めっちゃ地道なトレーニングしなきゃならないんですよ。笑

しかも毎日。笑

でも！

幸いなことに僕の友人たちは、けっこうな割合でギター弾けたから、ギター上達のコツとかを教えてもらったり、自分に合ったギタリストを教えてもらったりして、どうにか弾けるようになった。

んで。

なぜ？　歌が下手なのに弾き語りスタイルなのか？　　たとえば、

そもそも、

ロックボーカリストって歌がうまかったらおかしい世界なんです。笑

（少なくとも僕はそう思ってる）

しかも

弾きながら歌うスタイルだから

多少はコードや歌詞を間違えても文句言われない。

僕は引きこもりだったから

兄貴のオーディオにエレキギター繋いで

狂ったように弾きながら歌ってた。

だから

引きこもりだったとしてもね！

できることなんて腐るほどあるから。

やれることなんて山ほどあるから。

僕だって未だに小説の執筆の時には

家に引きこもって書いてるよ。

マンガを読みたい！ と思えば

昔は古本屋行くしかなかったけど

いまは

スマホで簡単にみれるじゃん？

YouTubeだってKindleだって

楽しいこと山ほどある。

だから

引きこもりなんてさ！

昔からいるから

引きこもりがちな性格の人。

方丈記の鴨長明なんかも

引きこもり文学の第一人者だし

そもそも、日本の偉大なる神のひとり

天照大神だって引きこもりだったからね！ 笑

引きこもり自体は悪いことじゃない。

しかしながら、いまが

死ぬほど辛いと感じてるならば

勇気だして心療内科にかかってほしい。

病気ならば薬で治るしさ！

障害年金だってある。

後の問題は、

魂が震えるような！

大好きなことを見つけたことが大事かもしれない。

それが見つかったら

人生勝ったようなもんじゃん？

自分自身を知るために

占いを使ってもいいし

本を読み漁ってもいい。

人間の可能性は無限大だよ！！

別にさゝ

僕だってノーベル文学賞を獲りたい！

とか言ってるけど、

小説書いてるからって

先生って呼ばれたくないし

社会的に偉くなりたいわけじゃないのよ。

どうせ小説書くなら

NO.1を目指した方が楽しいじゃん。

庶民で生まれて

庶民のまま天に召されたい。

仮に

ノーベル文学賞の候補に上がったとして

「やっぱこんな賞いらねー」

って中学生みたいに

突っぱねたりするかもしれないけど。笑

食べるぶんそれ以上

身につけるものそれ以上

かわきを潤すのに

いったい何が必要??

BY デフテック Micro

うーむ。

まあ、引きこもりも楽しいけど、

やっぱり生まれてきたからには

お互いに

素敵な恋愛をしよう♪

僕がエレキギターはじめた理由も

たぶん、

愛だよ。

愛!!

人生

2度と来ない

一度きりのチャンス!

あなたは何のために時間を使いますか?

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

40にして惑わず50にして天命を知る

孔子曰く

人は40にして惑わず50にして天命を知る。

前回のエッセイでは

引きこもりとエレキギターについて書きました。

その後

20代でようやく

社会復帰したものの

先行して

活躍していた幼馴染の

デフテック Micro 君と自分を

勝手に比べては

自分にはどんな使命があるのだろうか？

と模索する日々を過ごしていました。

そんな悶々とした日々のなか

mixiが流行った時期に

僕もまた同じように夢中になって

日々の日記を書いていたのですが、

とある大阪の友人が蒲田に遊びにきた際に
次のような会話のやりとりがありました。

友人

「はっしーは右文ってかいてあきのりやろ？」

僕

「そー」

友人

「名前の由来とかあるの？」

僕

「文学においてこの子の右に出る者なし。
そのように言われる人物になって欲しい、と」

友人

「はっしーはお仕事で悩んでるけど、やっぱり、名は体を表すの通り、文章を書く才能あると思うから
そう言う道はどうなん？」

僕

「……。」

友人からの予想もなかった言葉に
僕はしばし沈黙しました。

中卒のまま社会に出た上に
自分の意思で実家を出たから。

今から大学に通い直すにも
大検に合格しなきゃならないし

そもそも

大学に受かったとしても
学費が払えない。

そのような理由で

僕はずっと学問から逃げてきたのです。

幸いなことに

僕の友人たちは勤勉家が多かったから

「はっしー。いまはどんな本読んでる？」

会うたびに

読書感想会をやったりしてて、

いつかは！

「憧れだった大学生活がしてみたいね？」

って

大学へ行きたくても行けなかった者同士

励ましあいながら

仕事にボランティア活動に勉強に、
頑張ってきた。

時には

「明日からもう来なくていいからな？」

社長から告げられて、失業したりしても

「とりあえず飯行こ。今日はオレが奢るから」

そんな風にして

持ちつ持たれつ、触発しあい、共に学びながら
20代の青春期を過ごしました。

僕たちは

世界平和の旗を掲げた。

でも

いつしか

ケンカ別れみたいにして

お互いを信用できず袂を分けた。

30代になると

実兄の死に直面して

生活はこの心を反映するかのように
荒れに荒れた。

だが不思議なことに

そんな人生で一番辛い時期に
占いと文学に出会い救われた。

もともと仏教徒だったから
神秘的な世界は大好物で、

趣味で占いははじめたのだが、

プロになりたい！
という熱い気持ちを抑えきれずに

神色占術のメンターに直訴して
無理矢理、弟子にもらったのだ。

当然だが

占い師の世界でも

インターネットは使う。

むしろ

占いとインターネットは

めっちゃくちゃ相性が良いのだ。

そして

インターネットは

写真が命！ の世界とも言われている。

その次に重要なのが

文章

である。

まあ、

現在では動画広告など様々あるが

基本的には

写真と文章がインターネットの要なのだ。

そこで

パワーストーンや占いの広告を書かせて頂いてるうちに、

「橋本くんは、やっぱり文章の人だね！」

by

占術メンター

との指摘を受けて

僕はメール鑑定や広告の担当者になったのである。

まあ、占い師としては

変えられない運命などない！

と、お客様には

はつきり言うけれども。

実は

姓名判断なんかもバカにはできない。

僕のペンネームである

橋本昂祈は

蒲田ジャズロックシティのミヤが考えてくれたのだが、姓名判断では、全て大吉と出る。

実は、昂祈になる前に

佑文

とかいて、あきのり

というペンネームに変えたところ

やはり人生が180度変わる体験をした。

まあ

名前は容易なことでは変えられないから
あまり声を大にしては言えないが、

名は体を表す

というのは一理あると考えている。

（説明は次の機会に。）

まあ、その後

紆余曲折あり

34歳にして

プロの小説家になることを決意した。

きっかけは

自叙伝を書き下ろした時のこと。

たった1週間ほどで

A4のコピー用紙111枚の原稿を書いた。

そのことが自信になり

名は体を表す、のとおり

僕は3度の飯よりも

文章を読み書きしてる時間が好きだな！

って事に気づいた。

まあ

そもそも

ノンフィクションを一本書いたくらいで
すぐには小説を書けるようにはならなかった。

人様にお見せできるような
小説が書けるようになるまで
ゆうに6年はかかった。

今から振り返れば、僕の人生において
その6年間がもっとも辛かったのは間違いない。

しかしながら
もっとも幸福に感じたのも
その6年だったに違いない。

物事は全て陰と陽で成り立っている。

だから
もっとも辛かった時期こそ
より深い幸福の時間が存在していた。

はじめて書いた小説は、プロの作家先生から
日本語がおかしいと指摘を受けた。

だから
中学生レベルの国文法と高校レベルの読解力テストからやり直した。

しかしながらやはり
文章を書いたり読んだりしてる時間こそ
自分自身の一番の幸福であるから、

40歳にして物事の判断に迷わなくなった。

僕は小説を書くために
生まれてきたと知ったからだ。

現在、44歳。

今年の秋には45歳になる。

四捨五入すると

アラフィフ世代に突入するが、

50歳になるのが楽しみで仕方ない。

小説を書くことは一生続ける覚悟だが、
自分にはどんな天命が用意されているのか？

それを知るために

10代から勉強に仕事に活動にと頑張ってきた。

ひょっとしたら

戦う前から逃げた人には

解らない世界なのかもしれない。

早々と

夢を諦めた人には

関係ない話なのかもしれない。

しかしながら

人間として生まれた以上は

絶えず何かを学んでいるのだから

人間はそんな大した差なんてある訳ないと思う。

だから

十人十色の花を咲かせましょう♪

どんな人にも使命がある。

あなたにはあなたにしかできない使命が必ずある。

親孝行することかもしれないし、
それは本人にしか解らない。

僕も小説家である以上は

日々、気づきや学びをシェアしていきますので

どうかこの先も

何卒、あたたかい目で見守って下さいね♪

明日も学んでいきましょう！

あなたは才能や天命に気づいてますか？

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

頭の良い人とは努力の仕方を知っている

何のために「学ぶ」のか

中学生からの大学講義
(ちくまプリマー新書)

を読んでいる
幾つかのことに気づいた。

脳科学者の茂木健一郎先生曰く

頭が良い人とは
努力の仕方を知っている人のことを言う。

これに関して言えば

僕が中学生時代
異次元に頭が良い友達がいたのだが、

やはり
「変態」と言い切れるほど
かなり勉強ができるやつだった。

実際に、
都立日比谷高校とゆゝ
偏差値の高い高校に合格したし

高校卒業後は
「役者になりたい」とみなに宣言し

単身、渡米して行った。

ちなみに

小学生の頃からの友達なのだが、

小学生の頃から成績が良かったり

ピアノが弾けたりして

蒲田には珍しい

お坊ちゃんタイプの人間だと僕は思っていた。

まあ、

お坊ちゃんを定義することはできないが、

僕の中では、

まず第一に

ピアノが弾けること。

これがお坊ちゃん育ちの特徴だと思っている。

理由を簡単に述べると

ピアノが家にある時点で

親が高学歴の可能性が高い。

これには異論もあるとは思いますが、

もしも

僕が男親だったら？

ピアノよりも

剣道や空手、水泳を習わせると思う。

そっちの方が
後に、球技をやる際
かなり有利に働くと思うからだ。

しかしながら
その友人は家にピアノがあった訳でなく
電子キーボードで練習していたらしい。

ちなみに
学校の成績が良かったのも

塾など通わず
進研ゼミの赤ペン先生に習っていたらしい。

しかしながら

なぜ？

都立日比谷高校とゆゝ

第一学区で一番頭が良い高校にいて
大学へ進学しなかったのはかなりの謎だが、

蒲田には何気に
東大や京大卒だって
ゴロゴロいたりするから。

十人十色の
証明にもなったはずだ。

その友人の影響で、僕は
慶應義塾大学通信教育課程を志願した。

進研ゼミでも

ちゃんとやってれば

日比谷高校にも受かる。

だったら

慶應義塾大学通信教育課程から

世界一の小説家が誕生しても不思議ではない。

むしろ

独学の気風こそ

僕の信念なのだ！

なにわともあれ

勉強できるやつって

けっこうな割合で変態タイプだよね？

僕は勉強ができない変態タイプだから。

なんとなく同じ変態同士

勉強できるやつとは

シンパシー感じる。

まあさ

何ごとも目的意識というか

何のために？

これをやるのか？

って言う問いかけて大事かもしれない。

僕が44歳から大学目指すのだって

ひとえにいえば

面白い小説を書くためだけど。

高木里代子ヒメが慶應卒だから。

慶應にはかなりこだわってるよ。

やっぱり

里代子ヒメのお父様の立場からしたら
同じ慶應卒の方が良いだろうし、

娘が音楽家ならば

義理の息子には小説家を迎えたいとか。

里代子ヒメのお父様も

ギター弾かれるみたいだから、

お互いギタリスト同士

話が合うかな？ とかさ。

僕だって、何も考えずに

里代子ヒメのこと追いかけてるわけじゃないよ。

僕が慶應を目指す以上は

結婚相手にも慶應卒がいないって思うから。

天地徳合の相性で生まれてきて

今世、めぐり合い

果たして

里代子ヒメが

僕を必要としてくれるのか？

などなど。

まあ、恋愛においては

勉強よりとにかく恋愛なのか？

もしくは

あの人がいるから

もっと勉強を頑張ろう！　と思えるかどうか。

これは僕にとってかなり重要。

小説家は

生涯勉強だからさ。

お互いに向上していける関係じゃなきゃ

長い人生を共に歩めないもの。

ってか

話脱線しすぎたな！　笑

正直言って

僕はあんまり勉強できないよ。

でもね。

自分自身には

「オレは世界一頭が良い！」

って言い聞かせてる。

半ば洗脳に近い。笑笑

実際に頭が良いかどうかはわからないけど。

少なくとも

自分自身が知らないことを自覚しているから。

たとい

図書館にある本を全て読み尽くしたとしても
全体の1パーセントを知ったことにもならない。

無知を自覚する。

ちなみに

先に紹介した頭の良い友人って
図書館の近くに住んでたんですよ。

だから

僕らなんかが

公園で野球やサッカーやってる間に

その友人は図書館で本を読み

結果として勉強ができるようになった。

だから、頭の良さなんて

比べるものではないよねえ

せっかく東大行っても

卒業しなかったら意味ないと思うし

（堀江貴文さんなど例外はあるとして）

むしろ

大学卒業してからが本番だったりするし。

これと言う正解は出ない。

しかし

誰に言われなくても

努力できる人は最強だよ。

独学に目覚めたらもっと最強。

僕も小説家として

独学の達人と言われるよう

頑張ります！

では最後に

僕が大工見習い時代に

親方から言われた指導を

ご紹介して終わります。

目で盗め！

いつか教えてくれるだろうと思うな！！

目で見て盗んで

誰もいないところで

こっそり練習して

ようやくできるようになるんだ。

仕事は与えられるものじゃない。

お前が先輩から
どンドン奪っていくんだ!!

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

時を創る。時を待つ。

その昔、

時を待つことの重要性を仏法から学びました。

僕は無学で低所得だった割に

結婚願望はわりと強い方でして

運命の人を探し彷徨っていました。

でも

30代になっても理想の人と出逢えず

その間には小説家になる修行もあり

現在に至るまで、

かれこれ10年以上は

恋人がいない寂しい生活を送ってきた。

いいな！ って人が現れても

片思いに慣れすぎて

思いを隠すことが美徳みたいに思ってた。

前職がセラピストだし
占いの世界も九割女性だから

出逢いには困らないけど
仲の良い女の友達が増えるだけで

出逢い、別れ、
また出逢いを繰り返してきた。

でも

それでも良いと思えた。

大好きな小説を書くお仕事して
たまにブログやYouTubeで絡んでもらって

推しの高木代子ヒメが
笑顔で元気でいてくれれば

それだけで幸せ♪

高木里代子ヒメは

僕の理想を絵に描いて具現化したような
理想的な女性だ。

まるで
アニメの世界から飛び出してきたような
完璧無比なお姫様。

そんな人と出逢い、
ライブに参加させて頂いてること。

これ以上の幸せはない。

話しは脱線するが

本当にいい女というのは

男を引き上げてくれる魅力を持つと思う。

高木里代子ヒメと出逢って

僕の小説家としてのキャリアが始まったのだが

高卒認定からの慶應通信受験など

様々な面で大成長できたと

自分でもそう感じている。

時を創るという意識のもと

占い師として小説家として

頑張ってきた。

僕は運命の人と出逢いたくて占い師になった人間なので、今までたくさんの女性を占ってきたけど、里代子ヒメとの出逢いにより、無理に占いをする必要もなくなった。

慶應、集英社、ジャズ：etc

里代子ヒメとは

たくさんの共通点があり

とてもシンパシーを感じています。

時を待つこと。

それは

時として辛いことなのかもしれない。

例えば

夢を追いかけることは

芽が出るまで最低でも10年はかかる。

その間には

同期たちがどんどん出世していき

就職してれば

店のマネージャーや係長など

役職を与えられて活躍しているだろう。

他人と比べても

良いことは何一つない。

しかし

どうしても他人と比べて

落ち込んでしまうのが人間の弱さ。

夢追い人には

役職もなければお金もない。

あるのは

わずかな自由時間だけ。

その僅かな自由時間を

どのように活用していくのか？

この意識がきっと
時を創るということだろう。

待っているだけでは
望む未来はやって来ない。

ただ焦ってばかりでは
理想の未来は掴めない。

時を待つ、時を創る。

僕は今年の8月27日で45歳になります。

四捨五入すれば
もうアラフィフになる。

リアル50歳までには
直木賞や慶應を卒業していきたい。

今年は勝負の年です。

慶應受験、すばる新人賞エントリー、etc…。

果たして

僕の10年の修行は実を結ぶのか？

しかしながら
例え夢破れても…

絶対に諦めない。

それこそが夢を叶える
たった一つの方法だと思うのです。

夢…
お互いに叶えましょうね！

今日も最後までお読み頂きありがとうございます♪

小説家 橋本昂祈

全てを受け入れること

2025年も残すところ僅か。

あと3ヶ月ちょいでニューイヤー。

今年は思うような結果を得られない一年でした。

すばる新人賞

慶應通信受験

または

プライベートでも

色々と問題を抱えて。

こんなのほほんと

呑気に生きる僕ですら

久しぶりに凹まされた一年でした。

まだ、今年も

3ヶ月も残ってるからなんだけど

ちょっと襟を正して頑張らないと

とてもじゃないけど

理想的な50歳にはなれそうにない。

そんな焦りと戦っています。

ただ、一つ言えることは

チャレンジしなければ失敗はない。

チャレンジしたからこそその苦しみ。

一度、全てを受け入れて

来年もアクティブにチャレンジを続ける結意です。

40歳超えても

挑戦を続ける自分自身のこと

誇りに思います。

僕は多少の【文才】はあるのかもしれない。

けど【天才】ではない。

本当の天才だったら

とっくに小説の賞でも獲ってますから。

それに、昔から

小説だってそんなに好きじゃなかったから

今、小説家として

皆さまに作品を提供させて頂いてるのが

不思議なくらいです。

まあインディーズ作家とはいえ

7000ダウンロード以上を記録してますから

自分が全くの素人とは思ってないし

お金を払ってくれる人がある以上は

文章のプロとしての自覚はあります。

それでも僕は

【天才】ではないから

トッププロと戦うために

日々、自分なりに地道な努力を積み重ねてます。

話は脱線しますが、
20 歳くらいの未来予想図では
40 歳頃にはとっくに結婚してる予定でした。

その頃には、

特定のお相手もいなかったですが、

少年の頃からなんとなく

運命の出逢いや結婚に憧れてましたから

頑張っれば

いつかは理想通りの女性に
巡り会えると

強く信じて

自分自身の刀を磨いてた。

40 を過ぎて念願叶い

理想の人に出会えたと思って

幸福を噛み締めていたら

想い強すぎて

衝突してしまい

いつのまにか

ロミオとジュリエットのような

障害の多い恋愛となってしまった。

ロミオと違うのは

つらいだけの片思いかもしれない。

しかし、

ロミオと違って良いのだ。

僕の物語には基本的に
バッドエンドは存在しない。

どんな救いのないような人生や

小説などのフィクションの中にも

ちゃんと光を見出すのが

仏教徒としての僕のスタンスである。

神曲を書いたダンテは、

ベアトリーチェという女性に恋をするが、

その恋は実らなかった。

ベアトリーチェは別の男性と結婚し
若くして亡くなる。

しかし、ダンテは

ベアトリーチェ亡き後も

彼女のことを想い続けた。

その想いが昇華されたのが

【神曲】なのである。

ダンテのような

民衆の心が純粹だった時代に

生まれてないから

詳しくはわからないが、

最近では

ダンテの生き方に

強く共鳴するような気分にもなった。

恐れずに言うとするなら

僕の人生は【恋愛】が全て。

恋愛がうまくいけば幸せだし

仮に

フラれたとしても

根に持つようなことなく

その想いを

芸術の域にまで昇華させることだろう。

僕の持論では

文学とは人生そのもの。

僕はこのたった80年や100年の
短い人生の中で、

後世に残せるモノがあるとしたら。

小説家として、

不器用に生きてきた人生の足跡を通じ

【神さま】の存在を感じて欲しいと願っている。

地球は太陽の周りをぐるぐるまわる。

地球には月がまわる。

これは当たり前の事実だが

当たり前と呼ぶには

不思議すぎる。

宇宙のなりたち。

はじまりもなければおわりもない。

たった一つのご縁が…

キセキ的な確率だったことに

気づかずに

一生を虚しく過ごすのか？

当たり前の事ほど

【感謝】して生きるのか？

この違いは大きい。

全ては心。

心こそ大切なことから

生涯かけて大切に磨いていきたい。

今、生きてられるのは
当たり前の事なんかじゃない。

勝負は人生が終わるまでわからない。

たかだか45歳では
人生に勝敗はつけられない。

一生に一度しかないチャンス！

あなたならば
どのように活かしますか？

今日も最後までお読み頂きありがとうございます！

全てに感謝。

小説家 橋本昂祈

寝ぐせのままで哲学する

著 者 橋本 昂祈

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
